

単収・食味UP運動展開中！！

～ 米生産技術の基本に立ち返りましょう～

古来より「苗八分作」と言われるように、水稻栽培の育苗技術は、最も重要で作柄を大きく左右します。近年、田植え直後の低温や強風によって初期生育の遅れが見受けられますが、健苗育成により、初期生育を確保し、安定的収量の確保や食味の向上を目指しましょう。

今月の単収UPのポイント

- ①作業計画：適期移植を実施できるよう適正な作業計画を立てましょう。
- ②土づくり：米作りの基本となります。土壌改良材の施用と12～15cmの深耕を行いましょ。
- ③温 度：催芽温度・出芽温度は30℃を厳守しましょう。



【6年産米の育苗・本田準備期間の反省点】

ここ数年、育苗時期の気温は高温で経過しており、今年の長期予報でも気温は高い見込みとなっております。高温が原因の苗ヤケや細菌病の発生は年々増加しており、今までどおりの管理では不十分な場合もあります。暑くなりそうな時は早めにハウスを開け、空気を循環させましょう。

今年も細菌病(もみ枯、苗立枯)の多発が心配されています！ 注意！

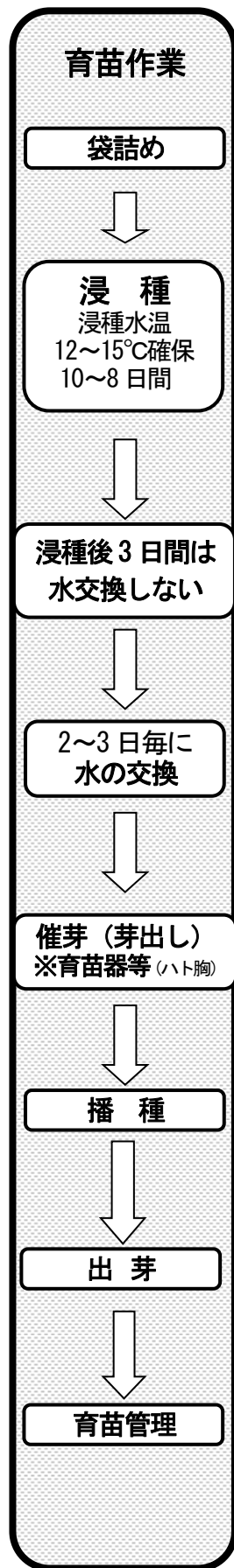


■写真：細菌病の症状

●育苗中の高温は細菌病の発生を助長させます。令和7年も高温の可能性が高いため、適正な温度管理に努めましょう！

【タフブロック SP 使用上の留意点】

- 種子消毒はタフブロック SP (生物農薬) です。以下の点を特に注意しましょう。
- ①種子に付着した成分が落ちないように、浸種中の糶に流水を直接当てない等、静かに行いましょう。
 - ②浸種時の10℃未満の低温は、催芽や出芽が遅延、抑制される場合があるので必ず12℃～15℃を確保しましょう。
 - ③テクリードC等の他の種子消毒剤と混ぜないように気を付けましょう。
 - ④タフブロック SP の有効成分が減少するので、ダコニールは「播種時」～「育苗期間中」は絶対に使用しないでください。



1. 作業計画 適正な作業計画を立てましょう。



田植え月日を決定し、育苗日数・浸種日数を逆算し、播種日・浸種スタート日を決定しましょう。年々田植え時期が早まっており、8月上旬の高温の影響が懸念されるため、移植を5月10日～20日頃に行うよう計画しましょう。また、栽植密度に対し、必要な苗箱数をあらかじめ計画しましょう。

【作業計画例】

	田植日	播種日	催芽	浸種
稚苗	5/10 予定の場合	25 日前の 4/15 頃	4/13 頃	4/1 頃～
中苗	5/15 予定の場合	40 日前の 4/10 頃	4/8 頃	3/27 頃～

2. 土づくり 土壌改良材の施用により安定収量の確保・食味向上を！



○堆肥や土壌改良材を施用し、天候に左右されず、品質低下抑制に努めましょう。

【土壌改良材の効果】

- ①根張りが良くなり、根の活力を高めます。
- ②茎葉が直立し、受光態勢が良くなることで登熟が向上します。
- ③茎葉が硬くなり、倒伏や病害を軽減します。
- ④玄米中のタンパク質含有量を低く抑えることで食味が向上します。
- ⑤乳白米の発生を抑えます。

投入目安 (10a 当)

肥料名	数量(袋)
ふるさと大地1号(春)	2.5
シリカ未来	3～5
みつパワー	5
ケイカル	4～6

○土壌改良材の施用と合わせて12～15cm程度の深耕を行いましょ。

深耕を行うことにより、軟らかい土に根が伸長した際に根の活動範囲を広げ、根は水分の吸収と栄養を多く取り込むことのできる吸収根を生じることができるため、安定的に水分と栄養の吸収ができます。

○圃場及び育苗ハウスの準備も併せて実施しましょ。

1) 畦畔の補修 ～漏水防止のため、ねずみ穴などを補修しましょ！～

- ①低温時深水管理を行うため。
- ②除草剤の効果を十分発揮させるため。
- ③肥料の流亡を防止するため。

2) 排水対策について

圃場内で水が溜まっている所は、溝掘りなどを行い、排水に努めましょ。

3) 有機物の投入 (10a 当)

- ①牛ふん堆肥………1, 200kg または
- ②醗酵鶏糞………5～6 袋 (15kg 入り)

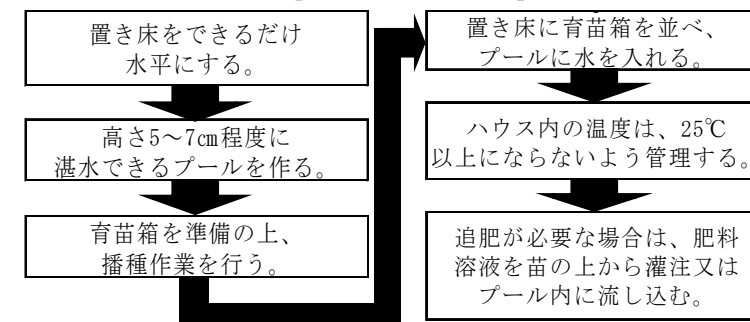
4) 育苗ハウスの準備

①ハウス内および周辺には、いもち病の発生原因となる稲わら・籾殻は置かない。

②ハウス内は、均平にする。

※ハウス内で高低差がある場合は、病害予防のため慣行育苗をお願いします。

【プール育苗の主な手順】

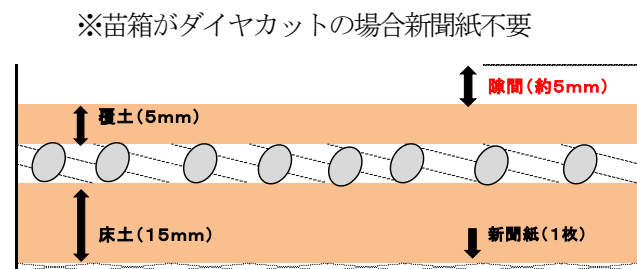


栽培履歴 (作業内容・農薬名・肥料名・散布日・使用量など) を記帳しましょ！！

3. 床土の準備

- 1) 床土は、肥料入り購入培土を基本とします。
 - ① J Aの肥料入り培土の場合は、1袋で6~7箱分です。
 - ② 余った培土は、翌年に持ち越さないよう、使い切るようにしましょう。
- 2) 床土・覆土の量の目安 (J A肥料入り培土の場合)

図1のように床土1.5cm (1.8kg/箱当)、覆土は種籾がかくれる程度 (1kg/箱当) とし、箱の上べりから5mm程度の余裕があるように箱詰め (播種機の設定) をします。
 ※床土の深さが浅い場合は苗の生育が劣る事があります。
- 3) 軽量培土は粒状培土とは特性が異なるので、使用方法や注意事項を確認しましょう。



■図1：播種後の苗箱断面図

【重要】適正な播種量を確保しましょう！

苗質	播種量(乾籾)	育苗日数	草丈	葉数
稚苗	150~180g	20~25	12~13	2.5
中苗	100~120g	35~40	13~15	3.5

4. 種籾の準備~袋詰め

- 1) 種子更新：100% 種子更新しましょう。種子更新は岩手ふるさと米における基本です!!
- 2) 種籾の準備：種籾は「タフブロック SP」による、消毒済み種子が配付になります。
 ※注意！！消毒済み種子については、薬剤の流亡により消毒効果が低下する恐れがありますので塩水選はしないでください。
- 3) 種籾のネット詰め：1袋当り5kg程度 ※詰め過ぎは、発芽ムラとなるので注意しましょう。

5. 浸種のポイント

- 1) 浸種時の水量は、種籾1:水2以上とする。
- 2) 水温は12℃~15℃を確保し水温の安定を図るため、直射日光を当てないようにする。
(日陰が望ましい)
 ※特に浸種開始24時間の低温は、その後十分な水温を確保しても出芽不揃の原因となります。
- 3) 水交換は3日目まで行わず、その後2~3日毎に交換する。
 その際に、種籾の上下の位置を置き換える。
 水交換は静かに行いましょう。種籾を強くゆすつたりすると、農薬が流亡する恐れがあります。
- 4) 浸種後半で水温が高くなった場合はその都度交換する。
- 5) 下記の水温・日数を目安に浸種を行いましょ。

浸種日数の目安		
水温	12℃	15℃
日数	10日	8日



日平均水温の積算で120℃以上!

浸種不十分は発芽不良となるので注意!

6. 催芽のポイント 催芽温度は30℃を厳守しましょう！

- 1) 播種前に種籾を、催芽器等を活用して、図2の「正しいハト胸」のような状態にします。
- 2) 催芽器のサーモスタット等は事前に点検しておきましょう!
- 3) 催芽はハト胸程度とし、芽や根の伸ばしすぎに注意しましょう
 ⇒ 催芽不揃の原因は「種籾の詰めすぎ」「浸種日数が短い」「浸種水温が高い(低い)」等があげられます。



■図2：催芽の目安

種子更新100%はふるさと米における必須条件です！必ず行いましょう！

7. 播種・出芽のポイント 加温出芽を基本とし、出芽温度は30℃を厳守しましょう！

- 1) 播種：育苗様式に合わせた播種量を守りましょう。
 種籾を乾燥させる場合は、直射日光を避けてください。
 ふるさと純情米ではタチガレースM等が使用出来ませんが、特別栽培米では使用できません。
- 2) 灌水：床土に十分水分がしみわたりかつ滞水しない程度としましょう。
 箱当り1ℓ程度。覆土後は灌水しない。
- 3) 出芽：育苗器を使用した加温出芽を推奨します。

タチガレースM(参考)				
剤型	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用方法
液剤	500~1000倍	1箱当り希釈液500ml	播種時又は発芽後	土壌灌注
	1000倍	1箱当り希釈液1ℓ	播種時	

ア. 加温出芽法

育苗器を用いて人工的に加温調節をしながら出芽させる方法です。
出芽温度30℃を厳守。高温では細菌病発生の恐れがあるので要注意！
 機械の温度設定を過信せず、内部に温度計を設置するなどして、実際の温度を確認しましょう。概ね出芽に48時間(2日間)を要します。
 夜間に出芽機内の温度が低くなると、出芽ムラや出芽時間が長くなり、生育の不揃いやカビ等の病害が心配されますので、夜間の温度管理には注意しましょう。

出芽長の目安	
稚苗	中苗
1cm以内	0.5cm

イ. 硬化ハウスに直接並べ方式による無加温出芽法(ベタ並べ)

育苗箱を直接ハウスの硬化床に並べて置き、半遮光性の保温シートを全面にベタ張りして、温度を維持し出芽させる方法です。箱の移動がなく省力的ですが下記のとおり欠点がありますので、注意しましょう。
 ① 苗立ち枯れ病等の、病害発生の危険性が高い。② 出芽揃いが悪く、ムラになりやすい。
 ③ 育苗日数が天候次第となり、場合によっては出芽日数が長くなる。

※ハウス内へ育苗箱を並べる際には、強い日差しに当たると白化状態になり、いずれは、枯死してしまいます。朝等、日差しが出る前に作業を終えるか、並べた都度シート等で被覆するようにしましょう。

JA岩手ふるさと版 農業生産工程管理(GAP)について

GAPへの取り組みにつきましては、安全・安心を第一とする岩手ふるさと産米の取り組みとして、令和7年産米以降も全生産者に組み込んでいただきます。秋にはチェックシートを提出していただきますので、日々の作業の記録を忘れずに行いましょう。記録用のチェックシートは指導会にて配付致します。

■水稻の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは…

「胆沢地域センター営農経済課」 47-0031

■生産資材等の直取り・窓口供給は…

「胆沢資材センター」 47-1612

※平日営業時間：午前8:30~午後5:00

休日営業時間 (4月~5月)：土曜日・日曜日 午前8:30~正午

必ず、栽培方法・ラベル等を確認の上、肥料・農薬等を使用すること。不明な点は資材使用前に相談してください。

